

【審査員】

チューリッヒ・ダンス・アカデミー（スイス）ダンス部門 主任

ジェイソン・ビーチャー Jason Beechey



カナダ・ナショナル・バレエ・スクール、ワガノワ・バレエ・アカデミー（サントペテルブルク）、スクール・オブ・アメリカン・バレエ（NY）で学ぶ。ロンドン・シティ・バレエでソリストとして踊った後、ベルギーのシャルルロワ/ダンスにて15年間活躍した。それと並行して、ワロニア・ブリュッセル財団振付センターの教育監督を務め、自身のスタジオ「ザ・ロフト」を設立、経営する。また、フレデリック・フラマン、ウィリアム・フォーサイス、ウエイン・マクレガー、アンジュラン・プレジョカージュらの芸術監督の元、D.A.N.C.E.プログラムのクリエイター/コーディネーターを務める。2009年ローザンヌ国際コンクールの芸術委員会のメンバーに加わり、芸術アドバイザーとしての役割を担っている。また、例年、YAGPの審査員を務めている。ドレスデン・パルッカ・ダンス大学の学長を18年務めた後、2024年現職に就任する。2021年にはその貢献が称えられKen McArthur賞受賞、ドイツDancer Transition Foundationの役員を務めている。

カンヌ・ムージャン・ロゼラ・ハイタワー国立高等ダンス・センター（フランス）芸術・教育監督

パオラ・カンタルポ Paola Cantalupo



© I.Bianco

イタリア出身。ミラノ・スカラ座で学ぶ。ローザンヌ国際バレエコンクールでは金賞を、ジャクソン国際コンクールでは銅賞を受賞し、モーリス・ベジャール20世紀バレエ団、ジョン・ノイマイヤーのハンブルク・バレエに入団する。1年間ニューヨークでチケット、リモン・メソッドを学んだ後、ポルトガル国立バレエにプリンシパルとして入団、1988年にモンテカルロ・バレエに移る。クラシックのレパートリーはもちろん、数多くの振付家の作品を踊る。1989年、ハノーファー公妃よりモンテカルロ・バレエのエトワールに任命され、2009年まで同バレエ団で活躍。モナコ文化勲章シュヴァリエ章を受章する。パリのフランス国立ダンスセンター（Pantin）での教師養成コース修了後、現職となる。以来、フランス文化省の要請を受け、地中海地域におけるダンス発展のために尽力している。またローザンヌ国際バレエコンクールの芸術委員会の一員であり、ダンス医学調査会（ADMR）の副会長も務める。

英国ロイヤル・バレエ・スクール（イギリス）アーティスティック・プログラム 主任

ホセ・カラヨル José Carayol



国費奨学金を得て、スペインのReal Conservatorio Profesional de Danza de Madridで学び、ヴィクトール・ウラデ、カルメン・ロシュ、オーランド・サルガドに師事する。世界中のカンパニーで踊り、クラシックからコンテンポラリーまで、そのレパートリーは多岐にわたる。ダンサーとしてのキャリアの後半は、教えることにフォーカスするようになり、NYでABTナショナル・トレーニング・カリキュラム・ティーチャーズ・コースを履修する。卒業後は、ABT® Project Plieプログラムのアソシエイト・ティーチャーとなり、クラシックバレエ芸術への情熱を若い世代に伝えながら、アメリカ国内のダイバーシティ&インクルージョン（多様性を重んじ、個々の格差を持たせない教育方法）をサポートすることを目的としたプログラムを実施する。また、ロサンゼルス・バレエ・アカデミーでは、コンサバトリー・プログラムとメンズ・プログラムの教師兼責任者を務める。その間、南カリフォルニアでプロコースの生徒を育てる環境を整えながら、男子プログラムをさらに発展させるために重要な役割を果たす。2019年より、シカゴのジョフリー・バレエのスタジオ・カンパニーおよびトレーニー・プログラム主任を務め、2021年より現職となる。

オーストラリアン・バレエ・スクール（オーストラリア）芸術監督・校長

ミーガン・コネリー Megan Connelly



オーストラリア・メルボルンでバレエを始め、アン・ウーリアムズ（ビクトリアン・カレッジ・オブ・ザ・アート）やゲイリー・ストック（ナショナルバレエスクール、当時）など著名な指導者に師事する。モナコ王立プリンセス・グレース・アカデミーに入学し、創設者マリカ・ベソブラソヴァの元でワガノワ・メソッド及びフレンチ・スタイルを学ぶ。1991年にオーストラリアン・バレエ入団し活躍する傍ら、オーストラリアン・バレエ・スクールの指導者コースを修了し、2010年から2020年まで同校で指導に当たる。2010年から2024年の間、オーストラリアン・バレエでも上演作品の指導を行う。また、リハビリテーション・チーム・メンバーとして、ABTやポリショイのプリンシパル・ダンサーであったデヴィット・ホールバーグの重篤な怪我からの舞台復帰に寄与する。2014年、世界的なバレエ団及びバレエ学校におけるダンスについての教育法、指導法、リハビリテーションメソッドにおける研究に関しChurchill Fellowship賞を受賞した。2024年、現職に就任。

アントワープ王立バレエ・スクール（ベルギー）芸術監督

ケヴィン・ドゥールワエル Kevin Durwael



1998年にアントワープ王立バレエ・スクールを卒業後、NDT2（ネザーランド・ダンス・シアター）に入団し、イリ・キリアン、ソル・レオン、ポール・ライトフット、オハッド・ナハリンらの作品を踊る。1999年、ベルギー王立ロイヤル・フランダース・バレエ団に移籍し、ウィリアム・フォーサイス、デイヴィッド・ドーソン、マルシア・ハイデ、クリスチャン・シュブック、ヨルマ・エロらと活動する。ダンサーとして活躍する傍ら、フランス、ポーランド、イタリア、トルコ、日本、アメリカ、チェコ、イスラエル、南アフリカなど世界中でマスタークラスを教える。YAGP、ヴァルナ国際バレエコンクール、タンツオリンピ、ヘルシンキ国際バレエコンクールなど様々な国際コンクールのために、数々のソロ、アンサンブル作品を振付する。2012年、アントワープ芸術大学を舞踊講師のディプロマを取得して卒業する。アントワープ王立バレエ・スクールでは、クラシック・バレエ、男子クラス、パ・ド・ドゥ、レパートリー、コンテンポラリー・ダンス、振付を教え、アメリカン・アカデミー・オブ・バレエのゲスト・ティーチャー及び振付家でもある。

K-BALLET ACADEMY/ K-BALLET SCHOOL (日本) 校長

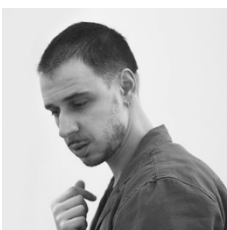
蔵 健太 Kenta Kura



北海道生まれ。16歳の時、ローザンヌ国際コンクールにてスカラシップ賞を受賞し、英国ロイヤル・バレエ・スクールに入学。1997年卒業と同時に英国ロイヤル・バレエ団に入団し、17年間活躍する。数多くの作品でソリストおよびプリンシパル役を務め、K. マクミラン、F. アシュトン、C. ウィールドン、G. バランシン、J. キリアン、W. フォーサイス、W. タケット、L. スカーレット、W. マクレガー、D. ビントレー、M. コーダー、M. ハート、M. ルナクル・テンプル振付の作品を含む様々な作品で主要な役を踊る。英国ロイヤル・バレエ・スクールのゲスト・ティーチャーを務め、2014年バレエ団退団後は同スクールの日本人初の専任アーティスト・ティーチャーとなる。2023年9月、熊川哲也が創設者・芸術監督であるK-BALLET TOKYO 附属のK-BALLET ACADEMY / SCHOOLの校長に就任する。

オクラム・ダンス・ムーブメント (イタリア) 芸術監督、コンテンポラリー振付家、講師

マルコ・ラウダニ Marco Laudani



ダンスカンパニー「オクラム・ダンス・ムーブメント」の芸術監督を務める。2013年、シュツガルト・バレエ ジョン・クランコ・スクールと協力関係を結ぶ。2016年以降、イタリア、ドイツ、アメリカ、アルゼンチン、ハンガリー、スペイン、ポルトガル、スロベニア、トルコ、ギリシャ、フランスなど、世界中の劇場や数々の国際フェスティバルで作品を上演する。2017年、CODARTS (ロッテルダム) で開催された Wicked Weekend COMMA に振付家として招聘される。2019年、Festival Certamen Coreografico distrito de Tetuan (マドリッド) では、彼の作品である「AMUNINNI」で最優秀振付家にノミネートされた。同年、Conservatório Internacional de Ballet e Dança (ポルトガル・レイリア) のアナネラ・サンチェスと芸術面でコラボレーションを始める。またこの年に政治科学の学位を得る。2021年、ポローニャ市協力のコンクール dancin'bo world connection の芸術監督に任命される。2022年よりイタリアのナショナル振付センター - Scenario Pubblico にてアソシエート・コレオグラファーを務めている。

アルバータ・バレエ・スクール (カナダ) トレーニー・プログラム ディレクター

アラム・マヌキアン Aram Manukyan



© PMG-Image Paul McGrath

アルメニア振付アカデミーにて、ワガノフ・メソッドを学ぶ。卒業後は、アルメニア国立バレエ、ウクライナ国立ドネツク歌劇場バレエ、インディアナポリス・バレエ・インターナショナル、シンシナティ・バレエ、サラソタ・バレエをはじめ、数々のバレエ団でソリストおよびプリンシパルとして活躍する。また、その指導の才能が認められ、モスクワのロシア国立舞台芸術大学 (GITIS) の奨学生として選出される。マスター・ティーチャーとして多くの名門バレエ学校で指導にあたるほか、YAGP をはじめ数多くの国際バレエコンクールの審査員も務める。2007年よりアルバータ・バレエ・スクールでバレエ教師を務めるが、プロのダンサーとしての幅広い経験とマスター・ティーチャーとして世界中で指導にあたってきた経験から、スクールに独自の視点をもたらしている。2014年7月、アルバータ・バレエII設立に際し、プログラム・ディレクターに任命され、2017年より現職を務める。

モナコ王立プリンセス・グレース・アカデミー (モナコ) 芸術監督

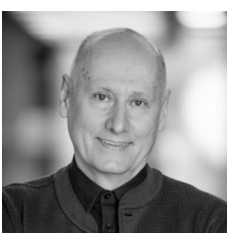
ルカ・マサラ Luca Masala



ミラノスカラ座バレエ学校、スクール・オブ・アメリカン・バレエ、モナコ王立グレースバレエ学校で学び、ベルギー王立フランダース・バレエ、ナンシー・バレエ団、ヘッセン州立ヴィースバーデン・バレエ団、バイエルン国立バレエを経て、2000年よりトゥールーズ・キャピトル劇場バレエで活躍する。クラシック・バレエのみならず、ネオクラシックバレエ作品でも全ての主要なパートを踊り、スタンリー・ウイリアムス、ウラジミール・ヴァシリエフ、アルヴィン・エイラー、ミハイル・パリシニコフ、ウィリアム・フォーサイス、イリ・キリアン、ジョン・ノイマイヤー、モーリス・ベジャールなど、名だたる振付家の作品に多数出演する。その後、バレエマスターとして様々な作品の上演に携わる一方、「Sang Mele」「Christs Lament」「The Seven Deadly Sinns」「Nougaro」など自身の作品を振り付ける。2009年には、トゥールーズ・キャピトル劇場バレエのナネット・グリシャックによるコッペリア初演の助手を務める。同年、現職に任命される。

シュツガルト・バレエ ジョン・クランコ・スクール (ドイツ) 校長

タデウス・マタチ Tadeusz Matacz



ポーランドのワルシャワで生まれ、ワルシャワの国立バレエアカデミーにてバレエを学ぶ。また同校では、レオニード・ジダーノフのもと、教育法も習得する。1977年、ダンサーとしてワルシャワ大劇場に入団し、また同時に、ワルシャワ・バレエ・スクールでバレエ教師も務めることとなる。1979年から1984年までの間、ワルシャワ大劇場でプリンシパル・ダンサーとして活躍する。1984年から1992年までは、カールスルーエ (ドイツ) のバーデン・ステート・シアターでソリストとして踊る。ここでは1988年から指導にもあたり、1992年から1998年まで、バレエマスター、振付家を務める。1990年から1998年の間には、ゲスト・ティーチャーとしてフランクフルト・バレエ、トゥールーズ・バレエ、ワルシャワ大劇場で指導に当たり、1997年から1998年にはシュツガルト・バレエでも教える。1999年1月よりジョン・クランコ・スクールの校長を務め、また数々の名だたる国際バレエコンクールで審査員を務めている。

サンフランシスコ・バレエ・スクール（アメリカ）校長

パスカル・モラット Pascal Molat



パリ生まれ。パリオペラ座バレエ学校にて学び、クロード・ベッシーに師事する。ベルギー王立ロイヤル・フランダース・バレエのファースト・ソリスト、モンテカルロ・バレエのプリンシパルを務めた後、2002年から2016年までサンフランシスコ・バレエのプリンシパルとして活躍する。そのレパートリーは、クラシック作品のみならず、バランシン、ベジャール、クランコ、フォーキン、フォーサイス、キリアン、マクミラン、マイヨー、ノイマイヤー、オデイ、ロビンス、チューダー、ファン・マーネンの作品など、多岐にわたる。2016年に現役引退後は、指導者としてさまざまなバレエ学校で指導を行う。英国ロイヤル・バレエ・スクールではヘルキ・トマソンの「Concerto Grosso」の公演に携わる。その後サンフランシスコ・バレエ附属バレエスクールに所属し、2017年に研修生プログラム監督補佐、2021年より現職を務める。また、2018年よりYAGPの審査員及びマスター・クラスの指導に従事している。その功績によりイサドラ・ダンカン賞を受賞し、2017年にはフランス文化省より芸術文化勲章を受章する。

トニー賞候補女優/ダンサー/教師

アルヴィン・エイリー・アメリカン・ダンス・シアター（アメリカ）元ダンサー

ザ・コンシャス・カム・バック（アメリカ）創設者

カリーン・プラントディット Karine Plantadit



アフター・ミッドナイト（コフィン）をはじめ、カム・フライ・アウェイ（ケイト）、ムービン・アウト（ブレнда、ジェシカ）、ライオン・キング（チーター、ライオン）、サタデー・ナイト・フィーバー（シャーリー・チャールズ）といった数々のブロードウェイ作品に出演する。セックス・アンド・ザ・シティ、ソー・ユー・シンク・ユー・キャン・ダンス、スマッシュ、ジ・アフリアなどのテレビ番組や、フリーダ（ジョセフィン・ベイカー）、ステイ、シカゴ、アクロス・ザ・ユニバース、ブラック・ネイティビティなどの映画作品にも多数出演する。また、ジャン・コクトーの「人間の声」を基にしたワン・ウーマン・ショウ「声」に出演し、NY市立博物館で上演されたキャバレー作品では、ジョセフィン・ベイカーとレナ・ホーンを演じる。カム・フライ・アウェイでは、トニー賞、アステア賞、ドラマ・リーグ賞にノミネートされ、14年にはアフター・ミッドナイトで、アステア賞を受賞する。また最近では、「ネイル・ユア・オーディション」を立ち上げ、全てのアーティストがオーディションで輝けるようサポートをしている。

ベルリン国立バレエ学校（ドイツ）芸術監督

マレク・ルーズイツキー Marek Różycki



© Johann Sebastian Hänel

ポーランド出身。ポズナン国立バレエスクールで学び、ポーリッシュ・ダンス・シアター、プレマー・ダンス・シアターで踊る。1982年ベルリン・ドイツ・オペラ入団し、のちにファースト・ソリストに昇格。ベルリン国立バレエでは、ファースト・ソリスト、バレエ・マスター、バレエ教師、振付家として多くの経験を積む。また、デンマークのピーター・シャウフスのカンパニーで、ファースト・バレエ・マスター及び振付助手を務める。その後、パリ国立ダンスセンターの教育学及び振付研究所で学び、クラシックダンスの教授としての国家資格を得る。ライン・バレエではゲスト・ティーチャーを務め、ストラスブルクのレジオン国立舞踊学校ではクラシックダンスの教授として指導にあたる。ベルリンに戻り、コーミッシュ・オーバーのベルリン・バレエ・カンパニーで副芸術監督及びファースト・バレエ・マスターを務める。現在は、振付家やゲスト・ティーチャーとしても精力的に活動し、映画、写真、美術、音楽など、別の芸術分野とのコラボレーションにも意欲的に取り組んでいる。

ロック・スクール・フォー・ダンス・エデュケーション（アメリカ）校長

ピーター・スターク Peter Stark



スクール・オブ・アメリカン・バレエで学び、ワシントン・バレエ、ワシントン・ナショナル・オペラ、ボストン・バレエ、ニューヨーク・シティ・バレエで活躍する。現在は、アメリカ及びヨーロッパで活躍するダンサーを育成する指導者として、世界的に知られている。アメリカ国内のみならずYAGPをはじめ、ヘルシンキ、ジャクソンなどの著名な国際コンクールでその生徒たちを1位入賞に導く。Dance Teacher Magazineの特集記事で取り上げられ、YAGP NY ファイナルではベスト・スクールおよびベスト・ティーチャー賞を受賞、2009年10月16日にはフロリダ州オーランドで「ピーター・スターク・デー」が祝われるなど、数々の名誉ある賞を受賞する。これまで、ボストン・バレエII アソシエイト・ディレクター、Next Generation Ballet（フロリダ州タンパ）創設芸術監督、オーランド・バレエ附属バレエ・スクール校長を務めた経験を持つ。

ヨーロピアン・スクール・オブ・バレエ（オランダ）芸術監督

オリヴィエ・ウェクスティーン Olivier Wecxsteen



フランス生まれ。モナコ王立プリンセス・グレース・アカデミーでマリカ・ベゾブラゾヴァに師事。1987年にモンテカルロ・バレエに入団、1993年にはボストン・バレエに入団し、プリンシパルとして活躍する。1998年カナダ・グランバレエ入団後は、多くのコンテンポラリー作品を踊りレパートリーを拡げる。2003年にサンフランシスコ・バレエのゲスト・アーティストとなるが、その傍ら海外で開催されたガラにも多数出演する。様々な本や写真集に掲載されるが、自身も有名な写真家であり、ウエアモアのメイン・フォトグラファーの一人である。2009年よりサンフランシスコ・バレエスクール、2013年よりイングリッシュ・ナショナル・バレエスクールにて指導にあたる。2015年から2017年には、オランダ国立バレエの研修コースにて指導にあたる。2018年にヨーロピアン・スクール・オブ・バレエ（EBS）の副芸術監督に就任、2021年に芸術監督に就任した。EBSのクラシック部門を指導する傍ら、クラシック作品の振付にも携わっている。

YGP2025 日本予選スタッフ

■ YAGP 芸術監督／共同創設者	ラリッサ・サヴェリエフ ゲナディ・サヴェリエフ
■ YGP JAPAN 事務局	
スカラシップ・チーム ディレクター	川西 晴子
スカラシップ・チーム	長谷川 千帆 川西 恵理 大岩 詩依 小沼 怜奈 奥田 尚美
事務局長	石井 千春
事務局補佐	吉岡 泰子
サポート・チーム	武田川 佳奈子 中島 凜和 南條 健吾 吉川 真子 山本 祐華
	松本 梨花 吉田 早希 吉田 沙羅
■ 舞台監督	伊東 昌彦 (M.S.U)
舞台監督補佐	渡邊 志穂 平ノ内 知彦 坪崎 和司
■ 音響	津田 和志 (神戸国際ステージサービス株式会社)
■ ピアニスト	平井 美加 稲葉 智子 徳岡 あかね 山本 規子 高橋 理沙
■ 通訳／アナウンス	長田 沙織 椿井 愛実 山本 奈那 山崎 南美 青柳 理恵
	村中 智 桑田 彩愛 北元 咲和歩 大槻 祐佳
■ 写真	スタッフ・テス (株)
	谷岡 秀昌 松澤 綾子 根本 浩太郎 高橋 大輔 渡辺 忍
	河合 真未
■ ビデオ／映像配信	(株) EDITION
■ ウェブサイト	合同会社 イングルウッド
■ シニア女性予選審査 協力ダンサー	飯島 望未 (K-BALLET TOKYO)
	本田 千晃 (スターダンサーズバレエ団)
	藤原 青依 (ヒューストン・バレエ団)
	佐々木 夢奈 (佐々木美智子バレエ団)
	岡野 祐女 (ポーランド国立バレエ団)
	佐々木 須弥奈 (英国ロイヤル・バレエ団)
	藤本 佳那子 (ドレスデン国立歌劇バレエ団)
	前田 紗江 (英国ロイヤル・バレエ団)
	升本 結花 (フィンランド国立バレエ団)
	中野 里美 (サンフランシスコバレエ団)
	奥村 彩 (チェコ国立バレエ団)
	若林 侑希 (ハンガリー国立バレエ団)
	小森 世楽 (有紀バレエスタジオ、ジョン・クランコ・スクール卒業)
	奈良井 琴美 (西岡・福谷バレエ団)
	村上 萌実 (法村友井バレエ団)

YGP2026 日本予選開催日

2025年10月5日(日)～10月12日(日) 東京にて開催決定!

※詳細は、後日 YGP Japan ウェブサイト、SNS 等でお知らせいたします。

Youth Grand Prix Japan

〒107-0062 東京都港区南青山 3-15-9 Minowa 表参道 3F

メール: info@yagp.jp ウェブサイト: <https://ygpjapan.jp/>

Instagram: @yagpjapan Twitter: @YAGP_JAPAN Facebook: Youth America Grand Prix - Japan